

令和7年度 国分寺市社会教育委員の会議 第4回定例会

日 時：令和7年7月17日（木）午前10時～

会 場：アクティ・ココブンジ 会議室B

1 開会

2 報告事項

①令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・第2回拡大役員会及び第1回理事会について

- 議長及び事務局から資料に基づき報告した（資料不足分はデータを送付する。）
- 会長市・副会長市の役割について質問があり、年間を通じて、総会や理事会などの会議を開催する必要があること等の説明が議長からあった。

3 協議事項

①令和7年度第2ブロック研修会について

- ビデオからどう展開していくか。国分寺学を通じて、学びが循環しているとも言えるのではないか。そこからテーマに繋がられる。
- ビデオと国分寺学から、教育長の挨拶にも繋がっていくのではないか。
- プレステーション（以下「プレステ」）を訪問した際、学校との繋がりが大きいとの話があった。学校の変化、子どもの変化に触れて展開できる。
- プレステでは、現場のリアルで様々な話が聞けた。
- プレステの話を学校と福祉にどう繋げていくか、うまく繋がればいい事例発表になる。
- プレステでは、コロナ禍で子どもの繋がりに変化があったこと、また、感情のコントロールがコロナ後も元に戻らない子どももいるとの話があった。人との繋がりも大人は元に戻ったが、子どもは形成される前でもあり、元には戻らないとの話もあった。
- プレステでは子どもたちの様子を見ながらうまく対応していると感じた。
- 大学生のスタッフも個々で完結してしまい、集団での役割を理解していないとの話もあった。
- コロナ前に戻すのも、地域や学校の力が必要。
- プレステの代表も喜んで事例発表に参加したいとの話があった。
- 学校でもコロナ禍で人と関われない時間が長かった。
- 学校では、不登校や登校しぶりも増えた。特別支援教室の対象児童も増えている。

- 学校に行けない子どもがプレステに来ている。プレステがひとつの救いになっている。
- プレステは子どもにとって何でもしていい場所。
- 事例発表をどうするかで、グループ討議の形も変わってくる。
- 3分野のうち、地域ではプレステに話を聞いて、事例発表をお願いしてもいいと考える。
学校、福祉でも話を聞かないと方向性が決まらないのではないか。
- プレステは、地域だけでなく、学校、福祉にも関連し、網羅している。
- 研修参加者には、何らかの成果、気づきを持って帰ってもらいたい。
- 学校は様々な案件があり、テーマがあれば事例発表はどのようにも対応はできる。
- テーマを広げ過ぎると討議もしづらくなる。
- 3分野ではなく、地域に絞ってもいいと思う。3分野に分けず、1つの事例発表からグループ討議に持っていく。
- 討議しやすい要素、自分事、身近なものとしたい。
- 事例発表は地域（プレステ）を中心に話を進めていき、学校の事例を織り交ぜながら進めるイメージ。各市の課題も絡めながら、それを元に社会教育委員としてどう関わっていけるか、グループ討議してもらう。
- グループ分けは、国分寺市の委員は分散するように配置した方がいい。
- 何を視点にグループ討議するか、事例発表で流れを作ればいい。各グループの国分寺市の委員が進行役でもいいのでは。
- 事例発表後に副議長が話をまとめて、グループ討議に繋げるイメージか。
- プレステの話を委員全員で聞いてもいいのでは。また、プレステに事例発表の方向性を示すとか、事前に打合せは必要。
- 次回の定例会は9月5日を候補日として、プレステの武藤様と調整できないか。場所の第2の拠点である「なみき牧場」で話を伺えたらいい。

4 閉会

<配布資料>

資料1 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・第2回拡大役員会及び第1回理事会について

資料2 令和7年度第2ブロック研修会タイムスケジュール 検討シート

参考資料①前回の会議要旨

②第67回全国社会教育研究大会（チラシ）